

されてゐるのである。勿論、こゝに謂ふ所の愛と敬とは、感覺的意味に於けるそれではなく、實踐的意味に於けるそれである。第一に愛の義務としては、親切、感恩、同情の諸義務があり、而して猜忌、背恩、他の禍を喜ぶ心は、これら人間愛に正反對なる人間憎惡の罪惡として排斥されなければならない。第二に、誰人も人格に於ける人間の品位を如何なる他人に於ても實踐的に承認すべき義務、即ち他人に對する敬の義務を負うてゐるのであるが、高慢、誹謗、侮蔑は、この義務を毀損する罪惡として排斥されなければならない。終に、「要素論結語」に於いて、二個人格が相互の相等しき愛と敬によつて一つに融合することたる友誼が實踐上必然的なる理念であり、讚美すべき義務たることを論じてゐる。

徳が修得せられなければならないといふことは、徳の概念の中に既に存してゐる。然らば如何にして人は徳を得るかを説けるのが、第二篇「倫理學方法論」である。そして道徳的教授の正しい方法は、「倫理學教授法論」が教へ、道徳的修練の正しい方法は、「倫理學修行法論」が教へる。教授の方法には、生徒が只教師の講義を聴いてゐる口授法と、教師が教へんと欲することを生徒に質問する反問法との二つがある。後者は更に、生徒の理性に訴へる會話法と、彼等の記憶に訴へる問答法との二つに分たれる。次に道徳的修行法は、徳の義務を遵守するに當りての毅然たる且つ嬉々たる心情を以てその規則となす。これは僧侶的苦行から區別せられなければならない。

最後に、宗教學は神に對する義務の學として、人間對人間の道徳的關係のみを考察の對象とする純粹道徳哲學の見ゆる限界の外になすことの論述を以て「全倫理學の結語」としてゐる。此處に拙き紹介の筆を擱くに當つて、カントの晩年老衰に於ける著述の故に殊に晦澁なるこの書を、充分なる思慮と、綿密なる注意との下に、殆んど完全なる邦語に移され、尙解説、註索引を添へて讀者に便宜を興へられたる譯者の厚き勞力に對して、深き敬意と謝意とを捧げると共に、蕪雜なるこの紹介が却て譯者の大なる努力を傷げざらんことを祈る次第である。(定價 貳圓、岩波書店發行、西田禎文。)

### 文化教育學概論

岡田 怡川 著  
甲子社書房發行

「文化の高調と創造とは人類が永遠の課題としてうけたものである限り、文化教育は一切教育の永遠なる努力の標的でないればならない。」(本書序文の一節)といふ根本思想の下に文化教育學を概論したのが本書である。従つて本書の文化教育學とは、謂はゆる「文化教育學」と稱せられるフンホルトやシュライエルマツヘルを鼻祖とし、テイルタイの哲學を基礎とし、シュプランガーに至つて大いに發達した精神科學派の教育學說のみを意味しない。もつと廣く、オイケンの哲學を基礎とする人格教育學やナトルプ及びヘーベルリンの教育學をも説く人々

でも文化を高調する人々の説は凡て併せて、文化教育學を稱してあるのである。

まづ文化教育學の史的考察を試み、次にテイルタイ、フツサー、オイケンの哲學を説き、次に文化教育學の研究の現狀を解説し、次にテイルタイ派の文化教育學について、シュブランガー、ケルシエンシユタイナー、シユテルン、フリッヅヤイゼンケーラー、リット、乙竹教授、入澤助教授の諸氏に分つて細説し、次にオイケン派の文化教育學を説き、次に新カント派の文化教育學を長田教授佐藤教授の諸氏に分つて説いてある。

最後に「文化教育學の特質と批判」と題し、結論を施してある。つまり著者の主張は文化教育學はテイルタイ一派を祖述することに終始すべきでない。人格的教育や新カント派の教育説と共に必ず三位一體となるべき本質的共通點があるといふ點にある。否むしる、文化教育學は、その缺點(重大なる缺點として往々指摘される)たる論理の明晰を缺いてゐる點を新カント派の學説によつて救ひうるを考へて居られるやうである。「文化教育學をして一時的流行思潮たらしむることなく、唯一の教育哲學とし、唯一の教育指導原理たらしむるためには、單にテイルタイ、シュブランガーを祖述することからして、眞にテイルタイ、シュブランガーをして完成せしむべくつゞめねばならぬ。そのためには何よりも先に長田氏の如き研究態度にまで進まねばならぬ、云々。」(本書三一〇頁)とあるのは、著者の眞精神、この著の眞の企圖であらうと思はれる。

一通り、文化教育學全般についての知識を縮縮しようとした爲、箇々の説明が簡單になり、従つて理解を妨げる點も少くない。且、誤植も少くないが便利な著書である。(定價武園六拾錢 本文三一頁。高橋俊乘)

## 寄贈書籍

(昭和二年八月——九月)

一 日本の世運と子女の教學 安岡正篤著

(金鷄文藝第一)

一 老莊的風雲兒 坂本龍馬 森 茂著

(人物研究叢刊第二)

一 復古の玉松操 (上) 伊藤武雄著

(同人 第三)

一 哲學者の話 森川智徳著

以上 金鷄學院 刊行  
中外出版株式會社